

大学番号 056

注3

設置年度 令和 3年度

計画の区分： 研究科の専攻の設置又は課程の変更
注1

事前伺い

大阪教育大学大学院 教育学研究科 高度教育支援開発専攻
注2

【認可】 設置に係る設置計画履行状況報告書

国立大学法人大阪教育大学
令和3年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名 経営戦略課

職名・氏名 専門職員 前田 祥行

電話番号 072-978-3334

（夜間） 072-978-3334

e-mail kikaku@bur.osaka-kyoiku.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に
()書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- 大学の設置の場合：「〇〇大学」
- 学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- 学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- 短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- 大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
- 大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- 大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」
- 通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 大学番号の欄については、調査対象大学等に対して別途発出する、事務連絡「令和3年度の履行状況報告書の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目次

大学院教育学研究科

＜高度教育支援開発専攻＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	11
4. 既設大学等の状況	12
5. 教員組織の状況	13
6. 附帯事項等に対する履行状況等	35
7. その他全般的事項	36

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

国立大学法人大阪教育大学

(2) 大学名

大阪教育大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒582-8582 大阪府柏原市旭ヶ丘4-698-1

〒543-0054 大阪府大阪市天王寺区南河堀町4-88

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
学長	(クリバヤシ スミオ) 栗林 澄夫 (平成26年4月)	—	
研究科長	(クリバヤシ スミオ) 栗林 澄夫 (平成26年4月)	—	
研究科主任	(ツジオカ ツヨシ) 辻岡 強 (令和2年4月)	—	

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 令和2年度に報告済の内容 → (2)

令和3年度に報告する内容 → (3)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください（入試区分ごとではありません）。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」）のほか、それらのコースや専攻単位でも記載してください。その場合別ファイルを作成し提出してください。
- ・ 様式は、平成29年度開設の4年制の学科の完成年度を越えて報告する場合（令和2年度までの5年間）ですが、完成年度を越えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。（修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。）
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称（学位）	学位又は学科の分野	設置時の計画				学生募集の停止について	備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
教育学研究科 高度教育支援 開発専攻 修士（教育学）	教育学・保育学 関係	2年	50人	年次 人	100人		

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を（ ）書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要（別記様式第2号（その2の1））」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止（予定）」と記載してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		平均入学定員 超過率	開設年度から 報告年度までの 平均入学定員 超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員									50人 (-) []		1.06倍	- 倍	
志願者数									103 (-) (-) [45] [-]				
受験者数									98 (-) (-) [44] [-]				
合格者数									58 (-) (-) [18] [-]				
B 入学者数									53 (-) (-) [16] [-]				
入学定員超過率 B/A									1.06				

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
- ・ （ ）内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、（（ ）書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度（令和3年度）から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学等のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「-」を記入してください。

(5) -③ 調査対象学部等の在学者の状況

学年	対象年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次											53 [16]	— [—]	
2年次													
計											53 [16] ()		

・令和3年5月1日 公表

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) - ④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
令和3年度	53 人	0 人	令和3年度	人	人	
合 計		0 人		人	人	

(注)・ 数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

- ・ 各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・ 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・ 在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・ 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。
 (記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
 ・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) - ⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{53} = \boxed{0} \%$$

(注)・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<教育学研究科 高度教育支援開発専攻>

(1) - ① 授業科目表

【認可時又は届出時】

【令和3年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
専攻共通科目	教育イノベーション概論	1前	2			1							
	現代社会の動向と教育協働	1前	2			2	1						
	現代的教育研究方法演習	1後	2			1	2						
	小計(3科目)	-	6	0	0	4	3	0	0	0	0		
心理・教育支援コース科目	心理支援に関する科目	保健医療分野に関する理論と支援の展開Ⅰ	1前	1			1						
		保健医療分野に関する理論と支援の展開Ⅱ	1前	1			1						
		福祉分野に関する理論と支援の展開Ⅰ	1後	1			1						
		福祉分野に関する理論と支援の展開Ⅱ	1後	1			1						
		教育分野に関する理論と支援の展開Ⅰ	1前	1			1						
		教育分野に関する理論と支援の展開Ⅱ	1前	1			1						
		司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開	1前・後	2								1	
		産業・労働分野に関する理論と支援の展開Ⅰ	1前	1			1						
		産業・労働分野に関する理論と支援の展開Ⅱ	1前	1			1						
		心理的アセスメントに関する理論と実践Ⅰ	2前	1			1						
		心理的アセスメントに関する理論と実践Ⅱ	2前	1			1						
		心理支援に関する理論と実践	2前	2			2	3					
	実践的・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践Ⅰ	1後	1			1							
	実践的・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践Ⅱ	1後	1			1							
	心の健康教育に関する理論と実践Ⅰ	1後	1			1							
	心の健康教育に関する理論と実践Ⅱ	1後	1			1							
	公認心理師と教師の協働的援助	1前・後	2								3		
	実習科目	心理実践実習ⅠB	1通	2			2	3					
		心理実践実習ⅠC	1前	1			2	3					
		心理実践実習ⅠD	1後	1			2	3					
		心理実践実習ⅡA	2通	3			2	3					
		心理実践実習ⅡB	2通	3			2	3					
		心理実践実習ⅡC	2前	1			2	3					
	フィールド研究科目	心理実践実習ⅡD	2後	1			2	3					
	心理実践実習ⅠA	1通	3			2	3						
小計(25科目)	-	0	35	0	3	3	0	0	0	4			
国際協働教育コース	コース共通科目	JSLカリキュラムの理論と実践	1前	2								1	
		国際関係論	1後	2			1						
		国際比較文化論	1後	2			1						
	日本型教育システム開発領域専門科目	日本型教育システムにおけるICT活用の方法	1後	2								1	
		日本型教育システムの諸相	1前	2								9	
		日本における教科の内容と指導法(数学)	1前	2								1	
		日本における教科の内容と指導法(理科)	1前	2								1	
		日本型教材の開発と授業デザイン(数学)	1後	2								2	
		日本型教材の開発と授業デザイン(理科)	1後	2								1	
		和算に学ぶ日本型数学教育	2前	2			1						
		生涯学習としての数理学	1前	2			1						
		生涯学習としての情報科学	1前	2			1	1					
		生涯学習としての自然科学(物理・化学分野)	1前	2			3	1					
		生涯学習としての自然科学(生命・地学分野)	1前	2			3						
		数学科教材論	2前	2			1					1	
		理科教材論	2前	2								1	
		数理学教育特論	2前	2			4						
		情報科学教育特論	2前	2			2	1					
		自然科学教育特論(物理・化学分野)	2前	2			3	2					
		自然科学教育特論(生命・地学分野)	2前	2			1	2					
	数理学教育特論演習	2後	2			4							
	情報科学教育特論演習	2後	2			2	1						
	自然科学教育特論演習(物理・化学分野)	2後	2			2	3						
	自然科学教育特論演習(生命・地学分野)	2後	2			2	2						
	国際協働教育コース	コース共通科目	JSLカリキュラムの理論と実践	1前	2								1
国際関係論			1後	2				1					
国際比較文化論			1後	2			1						
日本型教育システム開発領域専門科目		日本型教育システムにおけるICT活用の方法	1後	2								1	
		日本型教育システムの諸相	1前	2								9	
		日本における教科の内容と指導法(数学)	1前	2								1	
		日本における教科の内容と指導法(理科)	1前	2								1	
		日本型教材の開発と授業デザイン(数学)	1後	2								2	
		日本型教材の開発と授業デザイン(理科)	1後	2								1	
		和算に学ぶ日本型数学教育	2前	2			1						
		生涯学習としての数理学	1前	2			1						
		生涯学習としての情報科学	1前	2			1	1					
		生涯学習としての自然科学(物理・化学分野)	1前	2			3	1					
		生涯学習としての自然科学(生命・地学分野)	1前	2			3						
		数学科教材論	2前	2			1					1	
		理科教材論	2前	2								1	
		数理学教育特論	2前	2			4						
		情報科学教育特論	2前	2			2	1					
		自然科学教育特論(物理・化学分野)	2前	2			3	2					
		自然科学教育特論(生命・地学分野)	2前	2			1	2					
数理学教育特論演習		2後	2			4							
情報科学教育特論演習		2後	2			2	1						
自然科学教育特論演習(物理・化学分野)		2後	2			2	3						
自然科学教育特論演習(生命・地学分野)		2後	2			2	2						

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
教育ファシリテーションコース科目	健康・安全教育高度化領域専門科目	地域・学校における健康科学教育の理論と方法Ⅰ	1前	2		1						
		地域・学校における健康科学教育の理論と方法Ⅱ	1前	2		1						
		地域・学校における健康科学教育の理論と方法Ⅲ	1前	2			1					
		地域・学校における生活環境学教育の理論と方法Ⅰ	1前	2		1						
		地域・学校における生活環境学教育の理論と方法Ⅱ	1前	2		1						
		地域・学校における安全教育の理論と方法Ⅰ	1前	2		1						
		地域・学校における安全教育の理論と方法Ⅱ	1前	2		1						
		地域・学校における安全教育の理論と方法Ⅲ	1前	2		1						
		地域・学校におけるスポーツ実践の理論と方法Ⅰ	1前	2		1						
		地域・学校におけるスポーツ実践の理論と方法Ⅱ	1前	2		1						
		地域・学校におけるスポーツ実践の理論と方法Ⅲ	1前	2		1						
		健康科学の課題解決のための実践研究Ⅰ	1後	2		1						
		健康科学の課題解決のための実践研究Ⅱ	1後	2		1						
		健康科学の課題解決のための実践研究Ⅲ	1後	2		1						
		生活環境学の課題解決のための実践研究Ⅰ	1後	2		1						
		生活環境学の課題解決のための実践研究Ⅱ	1後	2		1						
		安全教育学の課題解決のための実践研究Ⅰ	1後	2		1						
		安全教育学の課題解決のための実践研究Ⅱ	1後	2		1						
		安全教育学の課題解決のための実践研究Ⅲ	1後	2		1						
		スポーツ実践の課題解決のための実践研究Ⅰ	1後	2		1						
スポーツ実践の課題解決のための実践研究Ⅱ	1後	2		1								
スポーツ実践の課題解決のための実践研究Ⅲ	1後	2		1								
プロジェクトベース科目	プロジェクト演習A	1前	2		22	11					1	
	プロジェクト演習B	1後	2		22	11					3	
小計(49科目)			-	0	100	0	22	11	0	0	0	7
課題研究科目	課題研究Ⅰ	2前	2			40	25	0	0	0		
	課題研究Ⅱ	2後	2			40	25	0	0	0		
	小計(2科目)	-	4	0	0	40	25	0	0	0	0	
合計(137科目)			-	10	251	0	40	25	0	0	0	27

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
教育ファシリテーションコース科目	健康・安全教育高度化領域専門科目	地域・学校における健康科学教育の理論と方法Ⅰ	1前	2		1						
		地域・学校における健康科学教育の理論と方法Ⅱ	1前	2		1						
		地域・学校における健康科学教育の理論と方法Ⅲ	1前	2			1					
		地域・学校における生活環境学教育の理論と方法Ⅰ	1前	2		1						
		地域・学校における生活環境学教育の理論と方法Ⅱ	1前	2		1						
		地域・学校における安全教育の理論と方法Ⅰ	1前	2		1						
		地域・学校における安全教育の理論と方法Ⅱ	1前	2		1						
		地域・学校における安全教育の理論と方法Ⅲ	1前	2		1						
		地域・学校におけるスポーツ実践の理論と方法Ⅰ	1前	2		1						
		地域・学校におけるスポーツ実践の理論と方法Ⅱ	1前	2		1						
		地域・学校におけるスポーツ実践の理論と方法Ⅲ	1前	2		1						
		健康科学の課題解決のための実践研究Ⅰ	1後	2		1						
		健康科学の課題解決のための実践研究Ⅱ	1後	2		1						
		健康科学の課題解決のための実践研究Ⅲ	1後	2		1						
		生活環境学の課題解決のための実践研究Ⅰ	1後	2		1						
		生活環境学の課題解決のための実践研究Ⅱ	1後	2		1						
		安全教育学の課題解決のための実践研究Ⅰ	1後	2		1						
		安全教育学の課題解決のための実践研究Ⅱ	1後	2		1						
		安全教育学の課題解決のための実践研究Ⅲ	1後	2		1						
		スポーツ実践の課題解決のための実践研究Ⅰ	1後	2		1						
スポーツ実践の課題解決のための実践研究Ⅱ	1後	2		1								
スポーツ実践の課題解決のための実践研究Ⅲ	1後	2		1								
プロジェクトベース科目	プロジェクト演習A	1前	2		22	11					1	
	プロジェクト演習B	1後	2		22	11					3	
小計(49科目)			-	0	100	0	22	11	0	0	0	7
課題研究科目	課題研究Ⅰ	2前	2			40	25	0	0	0		
	課題研究Ⅱ	2後	2			40	25	0	0	0		
	小計(2科目)	-	4	0	0	40	25	0	0	0	0	
合計(137科目)			-	10	251	0	40	25	0	0	0	27

卒業要件及び履修方法
<p>【修了要件】 大学院研究科に2年以上(長期履修学生にあつては3年以上)在学し、心理・教育支援コース及び教育ファシリテーションコースは所定の30単位以上、国際協働教育コースは所定の34単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、学位論文の審査及び最終試験に合格すること。</p>
<p>【履修方法】 [専攻共通科目] 専攻共通科目の授業科目3科目6単位を必修とする。</p>
<p>[コース共通科目] 選択するコース共通科目のうち、国際協働教育コースを選択する者は、選択必修2科目4単位以上を、教育ファシリテーションコースを選択する者は、必修2科目4単位を履修する。</p>
<p>[コース・領域専門科目] ○心理・教育支援コース 選択するコース専門科目のうち、「保健医療分野に関する理論と支援の展開Ⅰ」「福祉分野に関する理論と支援の展開Ⅰ」「教育分野に関する理論と支援の展開Ⅰ」の3科目3単位を必修とし、選択するコース専門科目からその他14単位以上の計17単位以上を履修する。</p> <p>○国際協働教育コース (日本型教育システム開発領域) 選択する領域専門科目のうち、「日本型教育システムにおけるICT活用の方法」「日本型教育システムの諸相」の2科目4単位を必修とし、「数理学教育特論」「情報科学教育特論」「自然科学教育特論(物理・化学分野)」「自然科学教育特論(生命・地学分野)」から選択必修1科目2単位、「数理学教育特論演習」「情報科学教育特論演習」「自然科学教育特論演習(物理・化学分野)」「自然科学教育特論演習(生命・地学分野)」から選択必修1科目2単位を含み、計16単位以上を履修する。</p> <p>(日本語教育支援高度化領域) 選択する領域専門科目区分のうち、「日本語教育理解高度化科目」から必修3科目6単位、「対照言語学理解高度化科目」から選択必修1科目2単位以上、「教科理解高度化科目」から選択必修1科目2単位以上、「多文化理解高度化プログラム」からいずれかのプログラム選択必修3科目6単位以上の計16単位以上を履修する。</p> <p>○教育ファシリテーションコース (教育イノベーション開発領域) 選択する領域専門科目のうち、「先端技術・データ活用演習」「先端技術の教育展開と教育データ分析演習」の2科目4単位を必修とし、計12単位以上を履修する。</p> <p>(地域教育・芸術支援人材高度化領域) 選択する領域専門科目から8単位以上を選択必修とし、選択する領域専門科目又は教育ファシリテーションコースその他領域専門科目から2科目4単位以上の計12単位以上を履修する。</p> <p>(健康・安全教育高度化領域) 選択する領域専門科目のうち、「地域・学校における健康科学教育の理論と方法Ⅰ/Ⅱ/Ⅲ」「地域・学校における生活環境学教育の理論と方法Ⅰ/Ⅱ」「地域・学校における安全教育の理論と方法Ⅰ/Ⅱ/Ⅲ」「地域・学校におけるスポーツ実践の理論と方法Ⅰ/Ⅱ/Ⅲ」から選択必修3科目6単位、「健康科学の課題解決のための実践研究Ⅰ/Ⅱ/Ⅲ」「生活環境学の課題解決のための実践研究Ⅰ/Ⅱ」「安全教育学の課題解決のための実践研究Ⅰ/Ⅱ/Ⅲ」「スポーツ実践の課題解決のための実践研究Ⅰ/Ⅱ/Ⅲ」から選択必修2科目4単位、教育ファシリテーションコースその他領域専門科目から1科目2単位以上の計12単位以上を履修する。</p>
<p>[フィールド研究科目] 心理・教育支援コースまたは国際協働教育コースを選択する者を対象とし、心理・教育支援コースを選択する者は「心理実践実習ⅠA」の1科目3単位を、国際協働教育コースを選択する者は「国際協働教育実践演習」と選択する領域の実践演習の2科目4単位を必修とする。</p>
<p>[プロジェクトベース科目] 教育ファシリテーションコースを選択する者を対象とし、「プロジェクト演習A」「プロジェクト演習B」の2科目4単位を必修とする。</p>
<p>[課題研究科目] 課題研究科目の授業科目2科目4単位を必修とする。</p>

卒業要件及び履修方法
<p>【修了要件】 大学院研究科に2年以上(長期履修学生にあつては3年以上)在学し、心理・教育支援コース及び教育ファシリテーションコースは所定の30単位以上、国際協働教育コースは所定の34単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、学位論文の審査及び最終試験に合格すること。</p>
<p>【履修方法】 [専攻共通科目] 専攻共通科目の授業科目3科目6単位を必修とする。</p>
<p>[コース共通科目] 選択するコース共通科目のうち、国際協働教育コースを選択する者は、選択必修2科目4単位以上を、教育ファシリテーションコースを選択する者は、必修2科目4単位を履修する。</p>
<p>[コース・領域専門科目] ○心理・教育支援コース 選択するコース専門科目のうち、「保健医療分野に関する理論と支援の展開Ⅰ」「福祉分野に関する理論と支援の展開Ⅰ」「教育分野に関する理論と支援の展開Ⅰ」の3科目3単位を必修とし、選択するコース専門科目からその他14単位以上の計17単位以上を履修する。</p> <p>○国際協働教育コース (日本型教育システム開発領域) 選択する領域専門科目のうち、「日本型教育システムにおけるICT活用の方法」「日本型教育システムの諸相」の2科目4単位を必修とし、「数理学教育特論」「情報科学教育特論」「自然科学教育特論(物理・化学分野)」「自然科学教育特論(生命・地学分野)」から選択必修1科目2単位、「数理学教育特論演習」「情報科学教育特論演習」「自然科学教育特論演習(物理・化学分野)」「自然科学教育特論演習(生命・地学分野)」から選択必修1科目2単位を含み、計16単位以上を履修する。</p> <p>(日本語教育支援高度化領域) 選択する領域専門科目区分のうち、「日本語教育理解高度化科目」から必修3科目6単位、「対照言語学理解高度化科目」から選択必修1科目2単位以上、「教科理解高度化科目」から選択必修1科目2単位以上、「多文化理解高度化プログラム」からいずれかのプログラム選択必修3科目6単位以上の計16単位以上を履修する。</p> <p>○教育ファシリテーションコース (教育イノベーション開発領域) 選択する領域専門科目のうち、「先端技術・データ活用演習」「先端技術の教育展開と教育データ分析演習」の2科目4単位を必修とし、計12単位以上を履修する。</p> <p>(地域教育・芸術支援人材高度化領域) 選択する領域専門科目から8単位以上を選択必修とし、選択する領域専門科目又は教育ファシリテーションコースその他領域専門科目から2科目4単位以上の計12単位以上を履修する。</p> <p>(健康・安全教育高度化領域) 選択する領域専門科目のうち、「地域・学校における健康科学教育の理論と方法Ⅰ/Ⅱ/Ⅲ」「地域・学校における生活環境学教育の理論と方法Ⅰ/Ⅱ」「地域・学校における安全教育の理論と方法Ⅰ/Ⅱ/Ⅲ」「地域・学校におけるスポーツ実践の理論と方法Ⅰ/Ⅱ/Ⅲ」から選択必修3科目6単位、「健康科学の課題解決のための実践研究Ⅰ/Ⅱ/Ⅲ」「生活環境学の課題解決のための実践研究Ⅰ/Ⅱ」「安全教育学の課題解決のための実践研究Ⅰ/Ⅱ/Ⅲ」「スポーツ実践の課題解決のための実践研究Ⅰ/Ⅱ/Ⅲ」から選択必修2科目4単位、教育ファシリテーションコースその他領域専門科目から1科目2単位以上の計12単位以上を履修する。</p>
<p>[フィールド研究科目] 心理・教育支援コースまたは国際協働教育コースを選択する者を対象とし、心理・教育支援コースを選択する者は「心理実践実習ⅠA」の1科目3単位を、国際協働教育コースを選択する者は「国際協働教育実践演習」と選択する領域の実践演習の2科目4単位を必修とする。</p>
<p>[プロジェクトベース科目] 教育ファシリテーションコースを選択する者を対象とし、「プロジェクト演習A」「プロジェクト演習B」の2科目4単位を必修とする。</p>
<p>[課題研究科目] 課題研究科目の授業科目2科目4単位を必修とする。</p>

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼担教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、各年度については、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**太字の赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(令和元年度開設であれば平成30年度)の表は適宜削除してください。(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
 - ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨地実務実習」による授業科目には「【臨】」、「連携実務演習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【令和3年度】

該当なし

- (注) ・ 2(1) ① 授業科目表に記入された各年度における変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
 ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 ・ 不要な年度（平成30年度開設であれば平成29年度）の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
5 科目	132 科目	0 科目	137 科目	5 科目 [0]	132 科目 [0]	0 科目 [0]	137 科目 [0]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。（記入例：1科目減の場合：△1）

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目 (3) と廃止科目 (4) の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計 (A)}} = \frac{0}{137} = \boxed{} 0\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3) 未開講科目」と「(4) 廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況, 経費

区 分		内 容				備考		
(1) 校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	借用面積：2,409 m ² 借用期間：1年（毎年更新）		
	校舎敷地	229,161 m ²	0 m ²	0 m ²	229,161 m ²			
	運動場用地	107,723 m ²	0 m ²	0 m ²	107,723 m ²			
	小 計	336,884 m ²	0 m ²	0 m ²	336,884 m ²			
	そ の 他	380,238 m ²	0 m ²	0 m ²	380,238 m ²			
	合 計	717,122 m ²	0 m ²	0 m ²	717,122 m ²			
(2) 校舎	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	大学全体			
	78,470 m ² (78,470 m ²)	0 m ² (0 m ²)	0 m ² (0 m ²)	78,470 m ² (78,470 m ²)				
(3) 教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体		
	118室	46室	111室	9室 (補助職員 人)	4室 (補助職員 人)			
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称		室 数			令和3年4月 専任教授1名を新規採用のため(3)		
	教育学研究科 高度教育支援開発専攻		6566室(共同利用8室含む) 室					
(5) 図書・設備	新設学部等の名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	
	教育学研究科 高度教育支援開発専攻	923,374 [188,601] (923,374 [188,601])	18,700 [3,425] (18,700 [3,425])	4,005 [4,004] (4,005 [4,004])	19,787 (19,787)	0 (0)	0 (0)	
	計	923,374 [188,601] (923,374 [188,601])	18,700 [3,425] (18,700 [3,425])	4,005 [4,004] (4,005 [4,004])	19,787 (19,787)	0 (0)	0 (0)	
(6) 図書館	面 積	閲覧座席数	収 納 可 能 冊 数					
	8,335 m ²	855	1,500,700					
(7) 体育館	面 積	体育館以外のスポーツ施設の概要						
	7,629 m ²	野 球 場 テニスコート(オムニ8面、クレール7面)						
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度
		教員1人当り研究費等	— 千円	— 千円	図書購入費	— 千円	— 千円	— 千円
		共同研究費等	— 千円	— 千円	設備購入費	— 千円	— 千円	— 千円
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
		— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	
	学生納付金以外の維持方法の概要		—					

(注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)

- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
- ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和3年5月1日現在の数値を記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(2)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
- ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、黒字で記入してください。
- ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学の名称	大阪教育大学					学生募集停止学科数	18	平均入学定員超過率1.3倍以上の学科数	0	備考	
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和3年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍	倍	年度	年度	年度	
教育学部	-	900	3年次25	3715	学士(教育学)	1.03	1.05	平成29		大阪府柏原市旭ヶ丘4-698-1 (※の課程、専攻) 大阪市天王寺区南河堀町4-88	
初等教育教員養成課程	4	60	0	240	学士(教育学)	1.04	1.06	-	平成29	※3年次より	
初等教育教員養成課程(夜間)	5	40	3年次25	275	学士(教育学)	1.03	1.07	-	平成29	※	
学校教育教員養成課程	4	420	0	1680	学士(教育学)	1.03	1.06	平成29	平成22		定員変更(25)
養護教諭養成課程	4	30	0	120	学士(教育学)	1.00	1.03	-	昭和51		
教育協働学科	4	350	0	1400	学士(教育学)	1.02	1.04	-	平成29		
特別支援教育教員養成課程	4	-	-	-	学士(教育学)	-	-	-	昭和63		平成29年度より学生募集停止
教養学科	4	-	-	-	学士(教養)	-	-	-	昭和63		平成29年度より学生募集停止
第二部小学校教員養成課程	5	-	-	-	学士(教育学)	-	-	-	昭和48	※	平成29年度より学生募集停止 3年次編入は令和元年度より学生募集停止
教育学研究科	2	50	0	50	修士(教育学)	1.06	1.06	-			
高度教育支援開発専攻	2	50	0	50	修士(教育学)	1.06	1.06	-	令和3	※柏原及び天王寺	
学校教育専攻	2	-	-	-	修士(教育学)	-	-	-	昭和43		令和元年度より学生募集停止
社会科教育専攻	2	-	-	-	修士(教育学)	-	-	-	昭和43		令和元年度より学生募集停止
理科教育専攻	2	-	-	-	修士(教育学)	-	-	-	昭和43		令和元年度より学生募集停止
英語教育専攻	2	-	-	-	修士(教育学)	-	-	-	昭和43		令和元年度より学生募集停止
家政教育専攻	2	-	-	-	修士(教育学)	-	-	-	昭和49		令和元年度より学生募集停止
音楽教育専攻	2	-	-	-	修士(教育学)	-	-	-	昭和50		令和元年度より学生募集停止
美術教育専攻	2	-	-	-	修士(教育学)	-	-	-	昭和50		令和元年度より学生募集停止
保健体育専攻	2	-	-	-	修士(教育学)	-	-	-	昭和50		令和元年度より学生募集停止
特別支援教育専攻	2	-	-	-	修士(教育学)	-	-	-	昭和51		令和元年度より学生募集停止
養護教育専攻	2	-	-	-	修士(教育学)	-	-	-	平成14		令和元年度より学生募集停止
実践学校教育専攻	2	-	-	-	修士(教育学)	-	-	-	平成8	※	令和元年度より学生募集停止
国際文化専攻	2	-	-	-	修士(学術)	-	-	-	平成6		令和3年度より学生募集停止
総合基礎科学専攻	2	-	-	-	修士(学術)	-	-	-	平成5		令和3年度より学生募集停止
芸術文化専攻	2	-	-	-	修士(芸術)	-	-	-	平成7		令和3年度より学生募集停止
健康科学専攻	2	-	-	-	修士(学術)	-	-	-	平成5	※	令和3年度より学生募集停止
連合教職実践研究科	2	150	0	300	教職修士(専門職)	0.74	0.77	-			
高度教職開発専攻	2	150	0	300	教職修士(専門職)	0.74	0.77	-	令和元	※柏原及び天王寺	

(注)・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学(大学院含む)、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。
(専攻科及び別科を除く)。なお、調査対象の学科等が設置されている大学から順に記載してください。
・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
・「平均入学定員超過率」には、報告年度(令和3年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5 教員組織の状況

<教育学研究科 高度教育支援開発専攻>

(1) -① 担当教員表

【認可時又は届出時】

【令和3年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	赤木 登代 <令和3年4月> 博士(文学)
		外国語と日本語の対照研究Ⅳ (独語) ヨーロッパ言語文化実践演習A 国際協働教育実践演習 日本語教育支援実践演習 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専	教授	芦野 隆一 <令和3年4月> 理学博士
		数理科学教育特論※ 数理科学教育特論演習※ 国際協働教育実践演習 日本型教育システム開発実践演習 データ解析のための数学概論※ プロジェクト演習A※ プロジェクト演習B※ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専	教授	安達 智子 <令和3年4月> 博士(教育学)
		産業・労働分野に関する理論と 支援の展開Ⅰ【隔年】 産業・労働分野に関する理論と 支援の展開Ⅱ【隔年】 地域教育とキャリア形成 プロジェクト演習A※ プロジェクト演習B※ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	赤木 登代 <令和3年4月> 博士(文学)
		外国語と日本語の対照研究Ⅳ (独語) ヨーロッパ言語文化実践演習A 国際協働教育実践演習 日本語教育支援実践演習 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専	教授	芦野 隆一 <令和3年4月> 理学博士
		数理科学教育特論※ 数理科学教育特論演習※ 国際協働教育実践演習 日本型教育システム開発実践演習 データ解析のための数学概論※ プロジェクト演習A※ プロジェクト演習B※ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専	教授	安達 智子 <令和3年4月> 博士(教育学)
		産業・労働分野に関する理論と 支援の展開Ⅰ【隔年】 産業・労働分野に関する理論と 支援の展開Ⅱ【隔年】 地域教育とキャリア形成 プロジェクト演習A※ プロジェクト演習B※ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ

専	教授	生田 泰志 ＜令和3年4月＞ 博士（人間・環境学）
		地域・学校におけるスポーツ実践の理論と方法Ⅰ スポーツ実践の課題解決のための実践研究Ⅰ プロジェクト演習A※ プロジェクト演習B※ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専	教授	石橋 紀俊 ＜令和3年4月＞ 修士（文学）
		現代文教育の理論と実践 日本近代文学実践演習 国際協働教育実践演習 日本語教育支援実践演習 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専	教授	石橋 正浩 ＜令和3年4月＞ 修士（人間科学）
		心理的アセスメントに関する理論と実践Ⅰ 心理的アセスメントに関する理論と実践Ⅱ 心理支援に関する理論と実践※ 心の健康教育に関する理論と実践Ⅰ【隔年】 心理実践実習ⅠB 心理実践実習ⅠC 心理実践実習ⅠD 心理実践実習ⅡA 心理実践実習ⅡB 心理実践実習ⅡC 心理実践実習ⅡD 心理実践実習ⅠA 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専	教授	鵜澤 武俊 ＜令和3年4月＞ 博士（理学）
		生涯学習としての自然科学（生命・地学分野）※ 自然科学教育特論演習（生命・地学分野）※ 国際協働教育実践演習 日本型教育システム開発実践演習 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ

専	教授	生田 泰志 ＜令和3年4月＞ 博士（人間・環境学）
		地域・学校におけるスポーツ実践の理論と方法Ⅰ スポーツ実践の課題解決のための実践研究Ⅰ プロジェクト演習A※ プロジェクト演習B※ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専	教授	石橋 紀俊 ＜令和3年4月＞ 修士（文学）
		現代文教育の理論と実践 日本近代文学実践演習 国際協働教育実践演習 日本語教育支援実践演習 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専	教授	石橋 正浩 ＜令和3年4月＞ 修士（人間科学）
		心理的アセスメントに関する理論と実践Ⅰ 心理的アセスメントに関する理論と実践Ⅱ 心理支援に関する理論と実践※ 心の健康教育に関する理論と実践Ⅰ【隔年】 心理実践実習ⅠB 心理実践実習ⅠC 心理実践実習ⅠD 心理実践実習ⅡA 心理実践実習ⅡB 心理実践実習ⅡC 心理実践実習ⅡD 心理実践実習ⅠA 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専	教授	鵜澤 武俊 ＜令和3年4月＞ 博士（理学）
		生涯学習としての自然科学（生命・地学分野）※ 自然科学教育特論演習（生命・地学分野）※ 国際協働教育実践演習 日本型教育システム開発実践演習 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ

専	教授	碓田 智子 ＜令和3年4月＞ 博士（学術）
		地域・学校における生活環境学 教育の理論と方法Ⅰ 生活環境学の課題解決のための 実践研究Ⅰ プロジェクト演習A※ プロジェクト演習B※ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専	教授	小野 恭靖 ＜令和3年4月＞ 博士（文学）
		古文教育の理論と実践 日本古典文学実践演習 国際協働教育実践演習 日本語教育支援実践演習 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専	教授	亀井 一 ＜令和3年4月＞ 文学修士
		国際比較文化論 国際知識文化実践演習 国際協働教育実践演習 日本語教育支援実践演習 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専	教授	川越 毅 ＜令和3年4月＞ 博士（理学）
		自然科学教育特論（物理・化学 分野）※ 自然科学教育特論演習（物理・ 化学分野）※ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専	教授	北川 文雄 ＜令和3年4月＞ 教育学修士
		地域音楽教育支援研究※ 音楽教育支援力高度化演習G プロジェクト演習A※ プロジェクト演習B※ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ

専	教授	碓田 智子 ＜令和3年4月＞ 博士（学術）
		地域・学校における生活環境学 教育の理論と方法Ⅰ 生活環境学の課題解決のための 実践研究Ⅰ プロジェクト演習A※ プロジェクト演習B※ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専	教授	小野 恭靖 ＜令和3年4月＞ 博士（文学）
		古文教育の理論と実践 日本古典文学実践演習 国際協働教育実践演習 日本語教育支援実践演習 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専	教授	亀井 一 ＜令和3年4月＞ 文学修士
		国際比較文化論 国際知識文化実践演習 国際協働教育実践演習 日本語教育支援実践演習 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専	教授	川越 毅 ＜令和3年4月＞ 博士（理学）
		自然科学教育特論（物理・化学 分野）※ 自然科学教育特論演習（物理・ 化学分野）※ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専	教授	北川 文雄 ＜令和3年4月＞ 教育学修士
		地域音楽教育支援研究※ 音楽教育支援力高度化演習G プロジェクト演習A※ プロジェクト演習B※ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ

専	教授	久保 公二 ＜令和3年4月＞ 博士（理学）
		生涯学習としての自然科学（物理・化学分野）※ 自然科学教育特論演習（物理・化学分野）※ 国際協働教育実践演習 日本型教育システム開発実践演習 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専	教授	神代 修 ＜令和3年4月＞ 大学
		地域音楽教育支援研究※ 音楽教育支援力高度化演習D プロジェクト演習A※ プロジェクト演習B※ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専	教授	小西 啓之 ＜令和3年4月＞ 博士（理学）
		生涯学習としての自然科学（生命・地学分野）※ 自然科学教育特論演習（生命・地学分野）※ 国際協働教育実践演習 日本型教育システム開発実践演習 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専	教授	佐藤 一好 ＜令和3年4月＞ 文学修士
		漢文教育の理論と実践 日中古典言語文化実践演習 国際協働教育実践演習 日本語教育支援実践演習 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専	教授	卜田 隆嗣 ＜令和3年4月＞ 文学博士
		音楽文化教育の理論と実践 国際音楽文化実践演習 国際協働教育実践演習 日本語教育支援実践演習 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ

専	教授	久保 公二 ＜令和3年4月＞ 博士（理学）
		生涯学習としての自然科学（物理・化学分野）※ 自然科学教育特論演習（物理・化学分野）※ 国際協働教育実践演習 日本型教育システム開発実践演習 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専	教授	神代 修 ＜令和3年4月＞ 大学
		地域音楽教育支援研究※ 音楽教育支援力高度化演習D プロジェクト演習A※ プロジェクト演習B※ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専	教授	小西 啓之 ＜令和3年4月＞ 博士（理学）
		生涯学習としての自然科学（生命・地学分野）※ 自然科学教育特論演習（生命・地学分野）※ 国際協働教育実践演習 日本型教育システム開発実践演習 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専	教授	佐藤 一好 ＜令和3年4月＞ 文学修士
		漢文教育の理論と実践 日中古典言語文化実践演習 国際協働教育実践演習 日本語教育支援実践演習 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専	教授	卜田 隆嗣 ＜令和3年4月＞ 文学博士
		音楽文化教育の理論と実践 国際音楽文化実践演習 国際協働教育実践演習 日本語教育支援実践演習 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ

専	教授	鈴木 剛 ＜令和3年4月＞ 博士（農学）
		生涯学習としての自然科学（生命・地学分野）※ 自然科学教育特論（生命・地学分野）※ 国際協働教育実践演習 日本型教育システム開発実践演習 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専	教授	千住 真智子 ＜令和3年4月＞ 体育学修士
		地域・学校におけるスポーツ実践の理論と方法Ⅲ スポーツ実践の課題解決のための実践研究Ⅲ プロジェクト演習A※ プロジェクト演習B※ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専	教授	高山 新 ＜令和3年4月＞ 商学修士※
		現代社会教育の理論と実践 国際現代社会文化実践演習 国際協働教育実践演習 日本語教育支援実践演習 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専	教授	滝 一郎 ＜令和3年4月＞ 博士（文学）
		芸術文化教育の理論と実践 ヨーロッパ芸術文化実践演習 国際協働教育実践演習 日本語教育支援実践演習 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専	教授	谷 敬太 ＜令和3年4月＞ 理学博士
		生涯学習としての自然科学（物理・化学分野）※ 自然科学教育特論（物理・化学分野）※ 国際協働教育実践演習 日本型教育システム開発実践演習 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ

専	教授	鈴木 剛 ＜令和3年4月＞ 博士（農学）
		生涯学習としての自然科学（生命・地学分野）※ 自然科学教育特論（生命・地学分野）※ 国際協働教育実践演習 日本型教育システム開発実践演習 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専	教授	千住 真智子 ＜令和3年4月＞ 体育学修士
		地域・学校におけるスポーツ実践の理論と方法Ⅲ スポーツ実践の課題解決のための実践研究Ⅲ プロジェクト演習A※ プロジェクト演習B※ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専	教授	高山 新 ＜令和3年4月＞ 商学修士※
		現代社会教育の理論と実践 国際現代社会文化実践演習 国際協働教育実践演習 日本語教育支援実践演習 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専	教授	滝 一郎 ＜令和3年4月＞ 博士（文学）
		芸術文化教育の理論と実践 ヨーロッパ芸術文化実践演習 国際協働教育実践演習 日本語教育支援実践演習 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専	教授	谷 敬太 ＜令和3年4月＞ 理学博士
		生涯学習としての自然科学（物理・化学分野）※ 自然科学教育特論（物理・化学分野）※ 国際協働教育実践演習 日本型教育システム開発実践演習 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ

専	教授	玉井 裕子 ＜令和3年4月＞ 教育学修士
		音楽教育支援力高度化演習F プロジェクト演習A※ プロジェクト演習B※ 課題研究I 課題研究II
専	教授	辻岡 強 ＜令和3年4月＞ 博士（工学）
		現代的教育研究方法演習※ 生涯学習としての自然科学（物理・化学分野）※ 自然科学教育特論（物理・化学分野）※ 国際協働教育実践演習 日本型教育システム開発実践演習 プロジェクト演習A※ プロジェクト演習B※ 課題研究I 課題研究II
専	教授	出相 泰裕 ＜令和3年4月＞ 文学修士※
		現代社会の動向と教育協働※ 学習支援特論 生涯学習推進行政の動向 地域教育実践演習 プロジェクト演習A※ プロジェクト演習B※ 課題研究I 課題研究II
専	教授	永井 由美子 ＜令和3年4月＞ 博士（医学）
		地域・学校における健康科学教育の理論と方法II 健康科学の課題解決のための実践研究II プロジェクト演習A※ プロジェクト演習B※ 課題研究I 課題研究II
専	教授	中務 晴之 ＜令和3年4月＞ 芸術学修士
		地域音楽教育支援研究※ 音楽教育支援力高度化演習C プロジェクト演習A※ プロジェクト演習B※ 課題研究I 課題研究II

専	教授	玉井 裕子 ＜令和3年4月＞ 教育学修士
		音楽教育支援力高度化演習F プロジェクト演習A※ プロジェクト演習B※ 課題研究I 課題研究II
専	教授	辻岡 強 ＜令和3年4月＞ 博士（工学）
		現代的教育研究方法演習※ 生涯学習としての自然科学（物理・化学分野）※ 自然科学教育特論（物理・化学分野）※ 国際協働教育実践演習 日本型教育システム開発実践演習 プロジェクト演習A※ プロジェクト演習B※ 課題研究I 課題研究II
専	教授	出相 泰裕 ＜令和3年4月＞ 文学修士※
		現代社会の動向と教育協働※ 学習支援特論 生涯学習推進行政の動向 地域教育実践演習 プロジェクト演習A※ プロジェクト演習B※ 課題研究I 課題研究II
専	教授	永井 由美子 ＜令和3年4月＞ 博士（医学）
		地域・学校における健康科学教育の理論と方法II 健康科学の課題解決のための実践研究II プロジェクト演習A※ プロジェクト演習B※ 課題研究I 課題研究II
専	教授	中務 晴之 ＜令和3年4月＞ 芸術学修士
		地域音楽教育支援研究※ 音楽教育支援力高度化演習C プロジェクト演習A※ プロジェクト演習B※ 課題研究I 課題研究II

専	教授	平木 彰 ＜令和3年4月＞ 博士（理学）
		数理科学教育特論※ 数理科学教育特論演習※ 国際協働教育実践演習 日本型教育システム開発実践演習 データ解析のための数学概論※ プロジェクト演習A※ プロジェクト演習B※ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専	教授	藤田 修 ＜令和3年4月＞ 博士（工学）
		教育イノベーション概論 情報科学教育特論※ 情報科学教育特論演習※ 国際協働教育実践演習 日本型教育システム開発実践演習 人工知能概論 先端技術の教育展開と教育データ分析演習 プロジェクト演習A※ プロジェクト演習B※ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専	教授	藤田 大輔 ＜令和3年4月＞ 医学博士
		地域・学校における安全教育的理論と方法Ⅰ 安全教育学の課題解決のための実践研究Ⅰ プロジェクト演習A※ プロジェクト演習B※ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専	教授	町頭 義朗 ＜令和3年4月＞ 博士（数理学）
		和算に学ぶ日本型数学教育生涯学習としての数理科学数学科教材論※ 数理科学教育特論※ 数理科学教育特論演習※ 国際協働教育実践演習 日本型教育システム開発実践演習 データ解析のための数学概論※ プロジェクト演習A※ プロジェクト演習B※ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ

専	教授	平木 彰 ＜令和3年4月＞ 博士（理学）
		数理科学教育特論※ 数理科学教育特論演習※ 国際協働教育実践演習 日本型教育システム開発実践演習 データ解析のための数学概論※ プロジェクト演習A※ プロジェクト演習B※ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専	教授	藤田 修 ＜令和3年4月＞ 博士（工学）
		教育イノベーション概論 情報科学教育特論※ 情報科学教育特論演習※ 国際協働教育実践演習 日本型教育システム開発実践演習 人工知能概論 先端技術の教育展開と教育データ分析演習 プロジェクト演習A※ プロジェクト演習B※ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専	教授	藤田 大輔 ＜令和3年4月＞ 医学博士
		地域・学校における安全教育的理論と方法Ⅰ 安全教育学の課題解決のための実践研究Ⅰ プロジェクト演習A※ プロジェクト演習B※ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専	教授	町頭 義朗 ＜令和3年4月＞ 博士（数理学）
		和算に学ぶ日本型数学教育生涯学習としての数理科学数学科教材論※ 数理科学教育特論※ 数理科学教育特論演習※ 国際協働教育実践演習 日本型教育システム開発実践演習 データ解析のための数学概論※ プロジェクト演習A※ プロジェクト演習B※ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ

専	教授	松本 鉄也 ＜令和3年4月＞ 博士（医学）
		地域・学校における健康科学教育の理論と方法Ⅰ 健康科学の課題解決のための実践研究Ⅰ プロジェクト演習A※ プロジェクト演習B※ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専	教授	松本 マスミ ＜令和3年4月＞ 文学修士
		外国語と日本語の対照研究Ⅰ（英語） 外国語教育の理論と実践 国際協働教育実践演習 日本語教育支援実践演習 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専	教授	森岡 達史 ＜令和3年4月＞ 博士（理学）
		数理科学教育特論※ 数理科学教育特論演習※ データ解析のための数学概論※ プロジェクト演習A※ プロジェクト演習B※ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専	教授	守本 晃 ＜令和3年4月＞ 理学修士
		生涯学習としての情報科学※ 情報科学教育特論※ 情報科学教育特論演習※ 国際協働教育実践演習 日本型教育システム開発実践演習 データ解析のための数学概論※ プロジェクト演習A※ プロジェクト演習B※ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専	教授	吉田 雅行 ＜令和3年4月＞ 体育学修士
		地域・学校におけるスポーツ実践の理論と方法Ⅱ スポーツ実践の課題解決のための実践研究Ⅱ プロジェクト演習A※ プロジェクト演習B※ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ

専	教授	松本 鉄也 ＜令和3年4月＞ 博士（医学）
		地域・学校における健康科学教育の理論と方法Ⅰ 健康科学の課題解決のための実践研究Ⅰ プロジェクト演習A※ プロジェクト演習B※ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専	教授	松本 マスミ ＜令和3年4月＞ 文学修士
		外国語と日本語の対照研究Ⅰ（英語） 外国語教育の理論と実践 国際協働教育実践演習 日本語教育支援実践演習 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専	教授	森岡 達史 ＜令和3年4月＞ 博士（理学）
		数理科学教育特論※ 数理科学教育特論演習※ データ解析のための数学概論※ プロジェクト演習A※ プロジェクト演習B※ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専	教授	守本 晃 ＜令和3年4月＞ 理学修士
		生涯学習としての情報科学※ 情報科学教育特論※ 情報科学教育特論演習※ 国際協働教育実践演習 日本型教育システム開発実践演習 データ解析のための数学概論※ プロジェクト演習A※ プロジェクト演習B※ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専	教授	吉田 雅行 ＜令和3年4月＞ 体育学修士
		地域・学校におけるスポーツ実践の理論と方法Ⅱ スポーツ実践の課題解決のための実践研究Ⅱ プロジェクト演習A※ プロジェクト演習B※ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ

専	教授	渡邊 昭子 ＜令和3年4月＞ 修士（文学）
		歴史教育の理論と実践 国際歴史文化実践演習 国際協働教育実践演習 日本語教育支援実践演習 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専	教授	新崎 国広 ＜令和3年4月＞ 修士（学術）
		現代社会の動向と教育協働※ プロジェクト演習A※ プロジェクト演習B※ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専	教授	稲垣 琢磨 ＜令和3年4月＞ 芸術学修士
		音楽教育支援力高度化演習E プロジェクト演習A※ プロジェクト演習B※ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専	教授	下村 陽一 ＜令和3年4月＞ 教育学修士
		心理支援に関する理論と実践※ 家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践Ⅰ【隔年】 家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践Ⅱ【隔年】 心理実践実習ⅠB 心理実践実習ⅠC 心理実践実習ⅠD 心理実践実習ⅡA 心理実践実習ⅡB 心理実践実習ⅡC 心理実践実習ⅡD 心理実践実習ⅠA 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専	准教授	乾 陽子 ＜令和3年4月＞ 博士（理学）
		自然科学教育特論（生命・地学分野）※ 自然科学教育特論演習（生命・地学分野）※ 国際協働教育実践演習 日本型教育システム開発実践演習 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ

専	教授	渡邊 昭子 ＜令和3年4月＞ 修士（文学）
		歴史教育の理論と実践 国際歴史文化実践演習 国際協働教育実践演習 日本語教育支援実践演習 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専	教授	新崎 国広 ＜令和3年4月＞ 修士（学術）
		現代社会の動向と教育協働※ プロジェクト演習A※ プロジェクト演習B※ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専	教授	稲垣 琢磨 ＜令和3年4月＞ 芸術学修士
		音楽教育支援力高度化演習E プロジェクト演習A※ プロジェクト演習B※ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専	教授	下村 陽一 ＜令和3年4月＞ 教育学修士
		心理支援に関する理論と実践※ 家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践Ⅰ【隔年】 家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践Ⅱ【隔年】 心理実践実習ⅠB 心理実践実習ⅠC 心理実践実習ⅠD 心理実践実習ⅡA 心理実践実習ⅡB 心理実践実習ⅡC 心理実践実習ⅡD 心理実践実習ⅠA 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専	准教授	乾 陽子 ＜令和3年4月＞ 博士（理学）
		自然科学教育特論（生命・地学分野）※ 自然科学教育特論演習（生命・地学分野）※ 国際協働教育実践演習 日本型教育システム開発実践演習 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ

専	准教授	井上 直子 ＜令和3年4月＞ 博士（文学）
		外国語と日本語の対照研究Ⅲ（仏語） ヨーロッパ言語文化実践演習B 国際協働教育実践演習 日本語教育支援実践演習 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専	准教授	岩切 昌宏 ＜令和3年4月＞ 大学
		保健医療分野に関する理論と支援の展開Ⅰ 保健医療分野に関する理論と支援の展開Ⅱ 心理支援に関する理論と実践※ 心理実践実習ⅠB 心理実践実習ⅠC 心理実践実習ⅠD 心理実践実習ⅡA 心理実践実習ⅡB 心理実践実習ⅡC 心理実践実習ⅡD 心理実践実習ⅠA 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専	准教授	江藤 亮 ＜令和3年4月＞ 修士（デザイン学）
		地域美術教育支援研究※ 美術教育支援力高度化演習※ プロジェクト演習A※ プロジェクト演習B※ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専	准教授	榎木 泰介 ＜令和3年4月＞ 博士（学術）
		現代的教育研究方法演習※ 地域・学校における健康科学教育の理論と方法Ⅲ 健康科学の課題解決のための実践研究Ⅲ プロジェクト演習A※ プロジェクト演習B※ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専	准教授	岡本 麻子 ＜令和3年4月＞ 大学
		音楽教育支援力高度化演習A プロジェクト演習A※ プロジェクト演習B※ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ

専	教授	井上 直子 ＜令和3年4月＞ 博士（文学）
		外国語と日本語の対照研究Ⅲ（仏語） ヨーロッパ言語文化実践演習B 国際協働教育実践演習 日本語教育支援実践演習 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専	准教授	岩切 昌宏 ＜令和3年4月＞ 大学
		保健医療分野に関する理論と支援の展開Ⅰ 保健医療分野に関する理論と支援の展開Ⅱ 心理支援に関する理論と実践※ 心理実践実習ⅠB 心理実践実習ⅠC 心理実践実習ⅠD 心理実践実習ⅡA 心理実践実習ⅡB 心理実践実習ⅡC 心理実践実習ⅡD 心理実践実習ⅠA 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専	准教授	江藤 亮 ＜令和3年4月＞ 修士（デザイン学）
		地域美術教育支援研究※ 美術教育支援力高度化演習※ プロジェクト演習A※ プロジェクト演習B※ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専	准教授	榎木 泰介 ＜令和3年4月＞ 博士（学術）
		現代的教育研究方法演習※ 地域・学校における健康科学教育の理論と方法Ⅲ 健康科学の課題解決のための実践研究Ⅲ プロジェクト演習A※ プロジェクト演習B※ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専	准教授	岡本 麻子 ＜令和3年4月＞ 大学
		音楽教育支援力高度化演習A プロジェクト演習A※ プロジェクト演習B※ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ

専	准教授	喜綿 洋人 ＜令和3年4月＞ 博士（理学）
		生涯学習としての自然科学（物理・化学分野）※ 自然科学教育特論演習（物理・化学分野）※ 国際協働教育実践演習 日本型教育システム開発実践演習 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専	准教授	GINSBURG JASON ROBERT ＜令和3年4月＞ Doctor of Philosophy(米国)
		日本語構造論 自然言語処理実践演習 国際協働教育実践演習 日本語教育支援実践演習 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専	准教授	串田 一雅 ＜令和3年4月＞ 博士（工学）
		自然科学教育特論（物理・化学分野）※ 自然科学教育特論演習（物理・化学分野）※ 国際協働教育実践演習 日本型教育システム開発実践演習 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専	准教授	櫛引 祐希子 ＜令和3年4月＞ 博士（文学）
		日本語教育の理論と実践※ 社会言語学特論 日本語学実践演習 国際協働教育実践演習 日本語教育支援実践演習 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専	准教授	後藤 健介 ＜令和3年4月＞ 博士（工学）
		地域・学校における安全教育的理論と方法Ⅲ 安全教育学の課題解決のための実践研究Ⅲ プロジェクト演習A※ プロジェクト演習B※ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ

専	教授	喜綿 洋人 ＜令和3年4月＞ 博士（理学）
		生涯学習としての自然科学（物理・化学分野）※ 自然科学教育特論演習（物理・化学分野）※ 国際協働教育実践演習 日本型教育システム開発実践演習 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専	准教授	GINSBURG JASON ROBERT ＜令和3年4月＞ Doctor of Philosophy(米国)
		日本語構造論 自然言語処理実践演習 国際協働教育実践演習 日本語教育支援実践演習 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専	准教授	串田 一雅 ＜令和3年4月＞ 博士（工学）
		自然科学教育特論（物理・化学分野）※ 自然科学教育特論演習（物理・化学分野）※ 国際協働教育実践演習 日本型教育システム開発実践演習 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専	准教授	櫛引 祐希子 ＜令和3年4月＞ 博士（文学）
		日本語教育の理論と実践※ 社会言語学特論 日本語学実践演習 国際協働教育実践演習 日本語教育支援実践演習 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専	准教授	後藤 健介 ＜令和3年4月＞ 博士（工学）
		地域・学校における安全教育的理論と方法Ⅲ 安全教育学の課題解決のための実践研究Ⅲ プロジェクト演習A※ プロジェクト演習B※ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ

専	准教授	五明 真 ＜令和3年4月＞ 修士（美術）
		地域美術教育支援研究※ 美術教育支援力高度化演習※ プロジェクト演習A※ プロジェクト演習B※ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専	准教授	高鍬 裕樹 ＜令和3年4月＞ 修士（教育学）
		現代的教育研究方法演習※ 生涯学習施設・職員特論 プロジェクト演習A※ プロジェクト演習B※ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専	准教授	寺坂 明子 ＜令和3年4月＞ 博士（心理学）
		現代社会の動向と教育協働※ 教育分野に関する理論と支援の 展開Ⅰ 教育分野に関する理論と支援の 展開Ⅱ 心理支援に関する理論と実践※ 心の健康教育に関する理論と実 践Ⅱ【隔年】 心理実践実習ⅠB 心理実践実習ⅠC 心理実践実習ⅠD 心理実践実習ⅡA 心理実践実習ⅡB 心理実践実習ⅡC 心理実践実習ⅡD 心理実践実習ⅠA 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専	准教授	寺島 みどり ＜令和3年4月＞ 修士（美術）
		地域美術教育支援研究※ 美術教育支援力高度化演習※ プロジェクト演習A※ プロジェクト演習B※ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専	准教授	豊沢 純子 ＜令和3年4月＞ 博士（心理学）
		地域・学校における安全教育の 理論と方法Ⅱ 安全教育学の課題解決のための 実践研究Ⅱ プロジェクト演習A プロジェクト演習B 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ

専	准教授	五明 真 ＜令和3年4月＞ 修士（美術）
		地域美術教育支援研究※ 美術教育支援力高度化演習※ プロジェクト演習A※ プロジェクト演習B※ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専	准教授	高鍬 裕樹 ＜令和3年4月＞ 修士（教育学）
		現代的教育研究方法演習※ 生涯学習施設・職員特論 プロジェクト演習A※ プロジェクト演習B※ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専	准教授	寺坂 明子 ＜令和3年4月＞ 博士（心理学）
		現代社会の動向と教育協働※ 教育分野に関する理論と支援の 展開Ⅰ 教育分野に関する理論と支援の 展開Ⅱ 心理支援に関する理論と実践※ 心の健康教育に関する理論と実 践Ⅱ【隔年】 心理実践実習ⅠB 心理実践実習ⅠC 心理実践実習ⅠD 心理実践実習ⅡA 心理実践実習ⅡB 心理実践実習ⅡC 心理実践実習ⅡD 心理実践実習ⅠA 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専	准教授	寺島 みどり ＜令和3年4月＞ 修士（美術）
		地域美術教育支援研究※ 美術教育支援力高度化演習※ プロジェクト演習A※ プロジェクト演習B※ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専	准教授	豊沢 純子 ＜令和3年4月＞ 博士（心理学）
		地域・学校における安全教育の 理論と方法Ⅱ 安全教育学の課題解決のための 実践研究Ⅱ プロジェクト演習A プロジェクト演習B 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ

専	准教授	中野 知洋 ＜令和3年4月＞ 博士（文学）
		外国語と日本語の対照研究Ⅱ（中国語） 日中近代言語文化実践演習 国際協働教育実践演習 日本語教育支援実践演習 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専	准教授	西川 章江 ＜令和3年4月＞ 博士（農学）
		地域・学校における生活環境学教育の理論と方法Ⅱ 生活環境学の課題解決のための実践研究Ⅱ プロジェクト演習A※ プロジェクト演習B※ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専	准教授	Brown Robert Sanborn ＜令和3年4月＞ Master of Arts（英国）
		英米言語文化教育の理論と実践 日英翻訳論実践演習 国際協働教育実践演習 日本語教育支援実践演習 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専	准教授	堀 一繁 ＜令和3年4月＞ 博士（工学）
		自然科学教育特論（物理・化学分野）※ 自然科学教育特論演習（物理・化学分野）※ 国際協働教育実践演習 日本型教育システム開発実践演習 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専	准教授	堀 真子 ＜令和3年4月＞ 博士（理学）
		自然科学教育特論（生命・地学分野）※ 自然科学教育特論演習（生命・地学分野）※ 国際協働教育実践演習 日本型教育システム開発実践演習 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ

専	准教授	中野 知洋 ＜令和3年4月＞ 博士（文学）
		外国語と日本語の対照研究Ⅱ（中国語） 日中近代言語文化実践演習 国際協働教育実践演習 日本語教育支援実践演習 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専	准教授	西川 章江 ＜令和3年4月＞ 博士（農学）
		地域・学校における生活環境学教育の理論と方法Ⅱ 生活環境学の課題解決のための実践研究Ⅱ プロジェクト演習A※ プロジェクト演習B※ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専	准教授	Brown Robert Sanborn ＜令和3年4月＞ Master of Arts（英国）
		英米言語文化教育の理論と実践 日英翻訳論実践演習 国際協働教育実践演習 日本語教育支援実践演習 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専	准教授	堀 一繁 ＜令和3年4月＞ 博士（工学）
		自然科学教育特論（物理・化学分野）※ 自然科学教育特論演習（物理・化学分野）※ 国際協働教育実践演習 日本型教育システム開発実践演習 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専	准教授	堀 真子 ＜令和3年4月＞ 博士（理学）
		自然科学教育特論（生命・地学分野）※ 自然科学教育特論演習（生命・地学分野）※ 国際協働教育実践演習 日本型教育システム開発実践演習 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ

専	准教授	馬 暁華 ＜令和3年4月＞ 博士（人文科学）
		国際関係論 国際関係史実践演習 国際協働教育実践演習 日本語教育支援実践演習 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専	准教授	望月 久稔 ＜令和3年4月＞ 博士（工学）
		生涯学習としての情報科学※ 情報科学教育特論※ 情報科学教育特論演習※ 国際協働教育実践演習 日本型教育システム開発実践演習 データ分析のためのプログラミング 先端技術・データ活用演習 プロジェクト演習A※ プロジェクト演習B※ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専	准教授	山畑 誠 ＜令和3年4月＞ 大学
		地域音楽教育支援研究※ 音楽教育支援力高度化演習B プロジェクト演習A※ プロジェクト演習B※ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専	准教授	山口 正寛 ＜令和3年4月＞ 博士（学術）
		福祉分野に関する理論と支援の展開Ⅰ 福祉分野に関する理論と支援の展開Ⅱ 心理支援に関する理論と実践※ 心理実践実習ⅠB 心理実践実習ⅠC 心理実践実習ⅠD 心理実践実習ⅡA 心理実践実習ⅡB 心理実践実習ⅡC 心理実践実習ⅡD 心理実践実習ⅠA 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専		

専	准教授	馬 暁華 ＜令和3年4月＞ 博士（人文科学）
		国際関係論 国際関係史実践演習 国際協働教育実践演習 日本語教育支援実践演習 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専	准教授	望月 久稔 ＜令和3年4月＞ 博士（工学）
		生涯学習としての情報科学※ 情報科学教育特論※ 情報科学教育特論演習※ 国際協働教育実践演習 日本型教育システム開発実践演習 データ分析のためのプログラミング 先端技術・データ活用演習 プロジェクト演習A※ プロジェクト演習B※ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専	准教授	山畑 誠 ＜令和3年4月＞ 大学
		地域音楽教育支援研究※ 音楽教育支援力高度化演習B プロジェクト演習A※ プロジェクト演習B※ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専	准教授	山口 正寛 ＜令和3年4月＞ 博士（学術）
		福祉分野に関する理論と支援の展開Ⅰ 福祉分野に関する理論と支援の展開Ⅱ 心理支援に関する理論と実践※ 心理実践実習ⅠB 心理実践実習ⅠC 心理実践実習ⅠD 心理実践実習ⅡA 心理実践実習ⅡB 心理実践実習ⅡC 心理実践実習ⅡD 心理実践実習ⅠA 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専	講師	松山 鮎子 ＜令和3年4月＞ 博士（教育学）
		学習支援特論 プロジェクト演習A※ プロジェクト演習B※ 生涯学習推進行政の動向

兼担	教授	石川 聡子 ＜令和3年4月＞ 博士（工学）
		日本型教育システムの諸相※ 日本における教科の内容と指導法（理科）
兼担	教授	井上 博文 ＜令和3年4月＞ 文学修士※
		日本型教育システムの諸相※
兼担	教授	大本 久美子 ＜令和3年4月＞ 教育学修士
		日本型教育システムの諸相※
兼担	教授	佐々木 靖 ＜令和3年4月＞ 大学
		プロジェクト演習B
兼担	教授	瀬尾 祐貴 ＜令和3年4月＞ 博士（理学）
		日本型教材の開発と授業デザイン（数学）※
兼担	教授	田村 知子 ＜令和3年4月＞ 博士（教育学）
		プロジェクト演習B
兼担	教授	仲矢 史雄 ＜令和3年4月＞ 博士（理学）
		日本型教材の開発と授業デザイン（理科） 理科教材論
兼担	教授	成實 朋子 ＜令和3年4月＞ 修士（教育学）
		日本型教育システムの諸相※

兼担	教授	石川 聡子 ＜令和3年4月＞ 博士（工学）
		日本型教育システムの諸相※ 日本における教科の内容と指導法（理科）
兼担	教授	井上 博文 ＜令和3年4月＞ 文学修士※
		日本型教育システムの諸相※
兼担	教授	大本 久美子 ＜令和3年4月＞ 教育学修士
		日本型教育システムの諸相※
兼担	教授	佐々木 靖 ＜令和3年4月＞ 大学
		プロジェクト演習B
兼担	教授	瀬尾 祐貴 ＜令和3年4月＞ 博士（理学）
		日本型教材の開発と授業デザイン（数学）※
兼担	教授	田村 知子 ＜令和3年4月＞ 博士（教育学）
		プロジェクト演習B
兼担	教授	仲矢 史雄 ＜令和3年4月＞ 博士（理学）
		日本型教材の開発と授業デザイン（理科） 理科教材論
兼担	教授	成實 朋子 ＜令和3年4月＞ 修士（教育学）
		日本型教育システムの諸相※

兼担	教授	水野 治久 ＜令和3年4月＞ 博士（心理学）
		公認心理師と教師の協働的援助 ※
兼担	教授	柳本 朋子 ＜令和3年4月＞ 博士（理学）
		数学科教材論※
兼担	教授	上出 吉則 ＜令和3年4月＞ 修士（学術）
		日本における教科の内容と指導 法（数学）
兼担	教授	梅川 康治 ＜令和3年4月＞ 修士（学校教育学）
		公認心理師と教師の協働的援助 ※
兼担	教授	岡田 耕治 ＜令和3年4月＞ 大学
		識字・成人基礎教育実践研究
兼担	教授	柿 慶子 ＜令和3年4月＞ 修士（学校教育学）
		公認心理師と教師の協働的援助 ※
兼担	准教授	井上 功一 ＜令和3年4月＞ 修士（教育学）
		日本型教育システムの諸相※
兼担	准教授	垣本 徹 ＜令和3年4月＞ 大学
		メディア・情報リテラシー特論 プロジェクト演習A プロジェクト演習B

兼担	教授	水野 治久 ＜令和3年4月＞ 博士（心理学）
		公認心理師と教師の協働的援助 ※
兼担	教授	柳本 朋子 ＜令和3年4月＞ 博士（理学）
		数学科教材論※
兼担	教授	上出 吉則 ＜令和3年4月＞ 修士（学術）
		日本における教科の内容と指導 法（数学）
兼担	教授	梅川 康治 ＜令和3年4月＞ 修士（学校教育学）
		公認心理師と教師の協働的援助 ※
兼担	教授	岡田 耕治 ＜令和3年4月＞ 大学
		識字・成人基礎教育実践研究
兼担	教授	柿 慶子 ＜令和3年4月＞ 修士（学校教育学）
		公認心理師と教師の協働的援助 ※
兼担	准教授	井上 功一 ＜令和3年4月＞ 修士（教育学）
		日本型教育システムの諸相※
兼担	准教授	垣本 徹 ＜令和3年4月＞ 大学
		メディア・情報リテラシー特論 プロジェクト演習A プロジェクト演習B

兼任	准教授	加藤 あや子 ＜令和3年4月＞ 大学
		日本型教育システムの諸相※
兼任	准教授	兼平 佳枝 ＜令和3年4月＞ 博士（学校教育学）
		日本型教育システムの諸相※
兼任	准教授	佐久間 敦史 ＜令和3年4月＞ 修士（教育学）
		社会に開かれた教育課程の実践研究
兼任	准教授	寺嶋 浩介 ＜令和3年4月＞ 博士（情報学）
		教育ポートフォリオとデータ
兼任	准教授	富永 雅 ＜令和3年4月＞ 博士（理学）
		日本型教材の開発と授業デザイン（数学）※
兼任	准教授	中橋 美穂 ＜令和3年4月＞ 修士（教育学）
		日本型教育システムの諸相※
兼任	准教授	庭山 和貴 ＜令和3年4月＞ 博士（心理学）
		学修評価とデータ
兼任	准教授	渡邊 美香 ＜令和3年4月＞ 博士（美術）
		日本型教育システムの諸相※

兼任	准教授	加藤 あや子 ＜令和3年4月＞ 大学
		日本型教育システムの諸相※
兼任	准教授	兼平 佳枝 ＜令和3年4月＞ 博士（学校教育学）
		日本型教育システムの諸相※
兼任	准教授	佐久間 敦史 ＜令和3年4月＞ 修士（教育学）
		社会に開かれた教育課程の実践研究
兼任	准教授	寺嶋 浩介 ＜令和3年4月＞ 博士（情報学）
		教育ポートフォリオとデータ
兼任	准教授	富永 雅 ＜令和3年4月＞ 博士（理学）
		日本型教材の開発と授業デザイン（数学）※
兼任	教授	中橋 美穂 ＜令和3年4月＞ 修士（教育学）
		日本型教育システムの諸相※
兼任	准教授	庭山 和貴 ＜令和3年4月＞ 博士（心理学）
		学修評価とデータ
兼任	准教授	渡邊 美香 ＜令和3年4月＞ 博士（美術）
		日本型教育システムの諸相※

兼任	講師	尾崎 拓郎 ＜令和3年4月＞ 修士（学術）
		日本型教育システムにおけるICT活用の方法
兼任	講師	米澤 千昌 ＜令和3年4月＞ 博士（日本語・日本文学）
		JSLカリキュラムの理論と実践 日本語教育の理論と実践※ 国際協働教育実践演習 日本語教育支援実践演習
兼任	講師	葉柴 陽子 ＜令和3年4月＞ 修士（教育学）
		司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開【隔年】

兼任	准教授	尾崎 拓郎 ＜令和3年4月＞ 修士（学術）
		日本型教育システムにおけるICT活用の方法
兼任	講師	米澤 千昌 ＜令和3年4月＞ 博士（日本語・日本文化）
		JSLカリキュラムの理論と実践 日本語教育の理論と実践※ 国際協働教育実践演習 日本語教育支援実践演習
兼任	准教授	安松 健 ＜令和3年4月＞ 博士（経営学）
		教育イノベーション概論 先端技術・データ活用演習
兼任	講師	高間 由香里 ＜令和3年4月＞ 博士（文学）
		地域美術教育支援研究
兼任	講師	平川 尚毅 ＜令和3年4月＞ 博士（理学）
		日本における教科の内容と指導法（理科）
兼任	講師	葉柴 陽子 ＜令和3年4月＞ 修士（教育学）
		司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開【隔年】

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教員名簿」を確認してください。
 - ・ 年齢は、それぞれの年度の5月1日時点の満年齢を記入してください。
 - ・ 専任(専門職大学等は専、実専、実(研)、実み)、兼任、兼任の順に記入してください。
 - ・ 不要な年度(平成30年度開設であれば平成29年度)の表は適宜削除し、詰めてください。

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【令和3年度】

- ・令和3年4月、松山 鮎子が専任教員として就任。
- ・令和3年4月、安松 健、高間 由香里、平川 尚毅が兼任教員として就任。
- ・令和3年4月、井上 直子、喜綿 洋人、中橋 美穂が准教授から教授に昇任。
- ・令和3年4月 尾崎 拓郎が講師から准教授へ昇任。

- (注)
- ・ 変更内容を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
 - ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度（令和元年度開設であれば平成30年度）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要研 究指導教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数	完成年度時における 設置基準上の必要研 究指導補助教員数
5	4	5
名	名	名

(注) ・ 大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件（平成十一年九月十四日文部省告示第七十五号）により算出される教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員等数【大学院】

設置時の計画						現在（報告時）の状況					
教授	准教授	講師	助教	計 (A)	助手 (A')	教授	准教授	講師	助教	計 (B)	助手 (B')
40	25	—	—	65	0	42	23	1	0	66	0
(42)	(23)	(1)	(0)	(66)	(0)						
研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数	/			研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数	/		
40	25	—				44	22	30			
(44)	(22)	(30)									
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教授	准教授	講師	助教	計 (C)	助手 (C')	教授	准教授	講師	助教	計 (D)	助手 (D')
42	23	1	0	66	0	42	23	1	0	66	0
[+2]	[△2]	[+1]	[0]	[+1]	[0]	[+2]	[△2]	[+1]	[0]	[+1]	[0]
研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数	/			研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数	/		
44	22	30				44	22	30			
[+4]	[-3]	[+30]				[+4]	[-3]	[+30]			

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）
 ・ 専門職大学院の場合は、「研究指導教員」を「研究者教員」と、「研究指導補助教員」を「実務家教員」と修正して記入してください。

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 (B)）の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 (C)）の教員 うち、定年を延長 して採用する 教員数
65 70（特任教員） 歳	0 名	0 名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{66}{65} = \boxed{101.53} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{0}{66} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	該当なし				担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由			
1	該当なし				〇〇概論	①	R1.10……………のため就任辞退（1）			
					◆◆基礎	②				
					☆☆演習	③				
2	准教授	△△ △△	R2.12	自由 ××語	②	R2.12……………のため就任辞退（2）				
			必修 ▲▲実習	③						
			必修 ◇◇特論	①						
合計（D）					後任補充状況の集計（E）					
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）			①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）	
〇〇	人	必修	#VALUE!	科目	必修	〇〇	科目	必修	〇〇	科目
		選択	#VALUE!	科目	選択	〇〇	科目	選択	〇〇	科目
		自由	#VALUE!	科目	自由	〇〇	科目	自由	〇〇	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	該当なし				担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由			
1	該当なし				〇〇概論	①	H29.3.31付け……………のため辞任（29）			
					◆◆基礎	②				
					☆☆演習	③				
2	准教授	△△ △△	R3.3	自由 ××語	②	R3.3.31付け……………のため辞任（3）				
			必修 ▲▲実習	③						
			必修 ◇◇特論	①						
合計（F）					後任補充状況の集計（G）					
辞任した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）			①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）	
〇〇	人	必修	#VALUE!	科目	必修	〇〇	科目	必修	〇〇	科目
		選択	#VALUE!	科目	選択	〇〇	科目	選択	〇〇	科目
		自由	#VALUE!	科目	自由	〇〇	科目	自由	〇〇	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ③ 上記 (3) - ① ・ (3) - ② の合計

該当なし				後任補充状況の集計（E）+（G）								
				+（b）+（c）		①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）		
				必修	#VALUE!	科目	必修	#####	科目	必修	#####	科目
				選択	#VALUE!	科目	選択	#####	科目	選択	#####	科目
				自由	#VALUE!	科目	自由	#####	科目	自由	#####	科目
				計	#VALUE!	科目	計	#####	科目	計	#####	科目

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③合計(D)+(F)}{(2) - ②設置時の計画(A)} = \frac{\#VALUE!}{\#REF!} = \boxed{\#VALUE!} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 令和2年度報告書から、新たに辞任等した専任教員等の状況

人

- (注) ・ (3) - ①、(3) - ②で赤字で記載した専任教員数の合計数を記載してください。

(3) - ⑥ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	該当なし			当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由			
1	該当なし			○○概論	①	H30.3.31付け65歳で定年退職(30)			
	該当なし			◆◆基礎	②				
	該当なし			☆☆演習	③				
2	准教授	△△ △△	自由	××語	②	R3.3.31付け65歳で定年退職(3)			
			必修	▲▲実習	③				
			必修	◇◇特論	①				
合計				後任補充状況の集計					
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
○○	人	必修	#VALUE! 科目	必修	○○ 科目	必修	○○ 科目	必修	○○ 科目
		選択	#VALUE! 科目	選択	○○ 科目	選択	○○ 科目	選択	○○ 科目
		自由	#VALUE! 科目	自由	○○ 科目	自由	○○ 科目	自由	○○ 科目
		計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

- (注) ・ 定年により退職した全ての専任教員について記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び()書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」 ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |
|---|

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; display: inline-block;"> 該当なし </div>	
---	--

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区	等	履 行 状 況	今後の の実施計画
認可時 (平成〇〇年)	該当なし		
設置計画履行状況 調査時 (平成〇〇年)	・〇〇学部〇〇学科において、～を是正すること。 是正意見		履行済
設置計画履行状況 調査時 (平成△△年)	・同一設置者が設置する既設学部等(◆◆学科)の～改善に努めること。 改善意見		履行済
設置計画履行状況 調査時 (平成□□年)	・大学設置基準に抵触するため、改めること。(△△学部△△学科) 指摘事項 (法令違反)		履行済
設置計画履行状況 調査時 (令和□□年)	・～について是正すること。 指摘事項 (是正)		履行中
設置計画履行状況 調査時 (令和□□年)	・〇〇大学の既設学部等(◆◆学科、●●学科)の～改善に努めること。 指摘事項 (改善)		履行中

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項(学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。)と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<教育学研究科 高度教育支援開発専攻>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
<p>・日本型教育システム開発実践演習 ここまで学習した、日本型の教育システムや最先端の科学・情報・数学を生かし、中学校や高等学校での大学教員による出前授業や、SSH事業の発表会、また、大学での教員免許更新講習やこども科学実験体験など様々な催しと一緒に参加し、その場で補助を行ったり、場合によっては講義を行うなど、課題解決型の学習について、発展的な演習を行う。 最終的にはそれぞれの国で、科学や数学について、どのような催しを行えば良いのかなどを振り返りを通じながら考えていく。</p> <p>・日本における教科の内容と指導法（数学） 日本の学校教育における算数・数学科の目標・カリキュラム・指導法・デジタル教科書を含む教科書についての現状と課題を理解する。また、それらを学校現場での現状を取り入れた講義形式でふまえるとともに、その背景となる高度な数学の話題、特に幾何学の話題にも触れ、それを取り入れた上で、異文化の中でも通用する数学教育とはどのようなものであるべきかを考える。さらにデジタル教科書やICTを活用した、今後の数学教育と学習指導要領のあり方について考察する。</p> <p>・日本における教科の内容と指導法（理科） 日本の理科教育の特徴をレッスンスタディや国際学力調査PISAテストの科学的リテラシーの結果などから理解するとともに、模擬授業やデジタル教科書の活用、探究活動の分析などの実践経験を通して考察する。また、近年、理科教育のトレンドであるSTEM教育の教材開発にグループで取り組みながら、教科等横断的な教育内容についての理解を深め、国際的にも通用するような理科の指導法とはどのようなものであるかを考える。</p>	<p>国際協働教育コース「日本型教育システム開発領域」のカリキュラムについて、下記3科目について内容を変更した。</p> <p>・日本型教育システム開発実践演習 ここまで学習した、日本型の教育システムや最先端の科学・情報・数学を生かし、中学校や高等学校での大学教員による出前授業や、SSH事業の発表会、また、大学での教員免許更新講習やこども科学実験体験など様々な催しと一緒に参加し、その場で補助を行ったり、場合によっては講義を行うなど、課題解決型の学習について、発展的な演習を行う。 リフレクションとして、学校内での理科離れ、数学離れの理由を考え、授業改善・学校改善に結び付けるとともに、それぞれの国で、科学や数学について、どのような催しを行えば良いのかなどを考えていく。</p> <p>・日本における教科の内容と指導法（数学） 日本の学校教育における算数・数学科の目標・カリキュラム・指導法・デジタル教科書を含む教科書についての現状と課題を理解する。また、それらを学校現場での現状を取り入れた講義形式でふまえるとともに、その背景となる高度な数学の話題、特に幾何学の話題にも触れ、それを取り入れた上で、異文化の中でも通用する数学教育とはどのようなものであるべきかを考える。さらにデジタル教科書やICTを活用した、今後の数学教育と学習指導要領のあり方について考察し、各国での授業改善・学校改善に結び付けていく。</p> <p>・日本における教科の内容と指導法（理科） 日本の理科教育の特徴をレッスンスタディや国際学力調査PISAテストの科学的リテラシーの結果などから理解するとともに、模擬授業やデジタル教科書の活用、探究活動の分析などの実践経験を通して考察する。また、近年、理科教育のトレンドであるSTEM教育の教材開発にグループで取り組みながら、教科等横断的な教育内容についての理解を深め、国際的にも通用するような理科の指導法とはどのようなものであるかを考え、各国での授業改善・学校改善に結び付けていく。</p>

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況</p> <p>教員の資質向上のために実施される本学のFDは、「大阪教育大学ファカルティ・ディベロップメント事業推進委員会」によって実施される全学FDと、本研究科運営委員会のもとに設置の「FD委員会」において企画・実施する。</p> <p>b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）</p> <p>令和3年4月改組後については、「FD委員会」が発足して期間が短いため、未開催。</p> <p>c 委員会の審議事項等</p> <p>本研究科の現状のカリキュラムや授業を運営することに加え、将来の改革も見据えて、教職員の資質向上に資する企画を設計、実施及び評価する。</p>
--

② 実施状況

a 実施内容

令和3年1月20日、「新教育学研究科の目指す教育・研究とは」

b 実施方法

ZOOMによるオンラインの形式で実施。新教育学研究科主任による改組の趣旨説明および新教育学研究科コース領域仮代表による発表を行った。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

教員74名，職員26名 計100名

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

改組後の大学院の仕組みや研究指導にかかわる共通認識と方向性の確認の場となった。各教員はFDの内容を踏まえ、授業改善をはじめとした教育・研究指導の充実に取り組み、研究科全体の教育研究の質の向上に寄与した。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

令和3年4月改組後は、未だ実施していないが前期終了時及び後期終了時に実施することとしている。

b 教員や学生への公開状況、方法等

教員に対しては授業改善につながるよう担当科目それぞれの学生評価データを提供することとしている。また、学生に対しては本学Webページを活用しデータ集計した包括的なものを提供することとしている。

(注) ・「① a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職学科、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

①

該当なし

してください。委員に変更がある場合は、その内容と各区分を踏まえた委員構成であることを説明してください。併せて、別途委員名簿を変更内容が分かるよう加筆の上、提出してください。)

b 委員会の開催状況（回数や開催日など）

c 委員会の審議事項等

d その他

② 審議状況

a 審議した内容

記入例)

- ・ 地域との連携に関する〇〇の観点から教育課程に対する提案内容
- ・ 産業界との連携に関する〇〇の観点から教育課程に対する提案内容

b 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への見直し状況

c 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への反映状況

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

設置計画どおりに順調に推移している。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

・令和4年1月末 公表予定

b 公表方法

・自己点検・評価報告書を作成し、教職員共通ポータルサイトに掲載
・大学ホームページ上に公開予定（令和4年1月末を予定）

③ 認証評価を受ける計画

（専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院については、機関別認証評価と分野別認証評価それぞれの受審計画について記載してください。）

・令和6年度に評価機関（一般財団法人 教員養成評価機構）の評価の受審を検討中

（注）・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和3年度）

a 公表予定の有無 [有 ・ 無]

≪ aで「有」の場合 ≫

b 公表（予定）時期 [調査結果公表後1ヶ月以内 ・ 公表後2～3ヶ月以内 ・ 公表後3ヶ月以降]

c 公表方法 [ウェブサイトへの掲載 ・ その他（ ）]

≪ aで公表「無」の場合 ≫

d 公表しない理由 []

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、

設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。